

呉工業高等専門学校	建築学科	開講年度	令和06年度(2024年度)
-----------	------	------	----------------

学科到達目標

本科の学習・教育目標

- (HA)豊かな教養と国際性の修得
- (HB)工学に関連する基礎知識の修得
- (HC)専門分野の課題に対応できる能力の修得
- (HD)社会のニーズを捉え、創造的に課題に対応できる能力の修得

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
建築学科	本4年	学科	専門	建築設計製図Ⅳ	2	穂垣友康, 鍵山昌信
建築学科	本4年	学科	専門	建築意匠	2	安箱敏
建築学科	本5年	学科	専門	建築法規Ⅰ	2	山中靖彦
建築学科	本5年	学科	専門	建築生産Ⅱ	2	山中靖彦
建築学科	本5年	学科	専門	建築設備Ⅰ	2	河崎啓太
建築学科	本5年	学科	専門	建築設備Ⅱ	2	河崎啓太
合計					12	

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
一般	選択必修	現代文Ⅰ	履修単位	1	2																		上芝令子			
一般	選択必修	現代文Ⅱ	履修単位	1		2																	上芝令子			
一般	選択必修	古典文学Ⅰ	履修単位	1		2																	上芝令子			
一般	選択必修	歴史総合Ⅰ	履修単位	1	2																		菊池達也			
一般	選択必修	歴史総合Ⅱ	履修単位	1		2																	菊池達也			
一般	選択必修	英語Ⅰ	履修単位	1	2																		大森誠			
一般	選択必修	英語Ⅱ	履修単位	1		2																	大森誠			
一般	選択必修	英語表現Ⅰ	履修単位	1	2																		蒲地祐子			
一般	選択必修	英語表現Ⅱ	履修単位	1		2																	蒲地祐子			
一般	選択必修	保健	履修単位	1	2																		丸山啓史			
一般	選択必修	体育Ⅰ	履修単位	2	2	2																	瀧口和人			
一般	選択必修	基礎数学AⅠ	履修単位	2	4																		赤池祐次			
一般	選択必修	基礎数学AⅡ	履修単位	1		2																	平松直哉			



呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	現代文 I		
科目基礎情報							
科目番号	0001	科目区分	一般 / 選択必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	『現代の国語』(数研出版)・『言語文化』(数研出版)・『プレミアムカラー 国語便覧』(数研出版)・『新版 チャレンジ常用漢字』(第一学習社)						
担当教員	上芝 令子						
到達目標							
1. 日本語で書かれた文章を的確に読解すること。 2. さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を涵養すること。 3. 作品が書かれた時代(文学史)や作家に関する知識を身につけること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	日本語で書かれた文章を的確に読解できる	日本語で書かれた文章を読解できる	日本語で書かれた文章を読解できない				
評価項目2	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことができる	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことができる	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことができない				
評価項目3	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることができる	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることができる	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることができない				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)							
教育方法等							
概要	日本語で書かれた文章を的確に理解する能力を養うため、小説、評論などの文章を読解する。また、自分の考えをまとめ表現できる思索力と言語能力を身につける。						
授業の進め方・方法	講義を基本とする。週に一度を目安に漢字テストを実施する。適宜、課題提出も課す。新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する場合があります。						
注意点	授業態度は常に真摯にとり組む姿勢が基本です。積極的に学び、文章を読むことの楽しさ、奥深さに向き合ってください。(新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する可能性があります。)						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	小説「羅生門」(芥川龍之介)	1、小説「羅生門」を読み、鑑賞する。作品の主題・構成・表現方法を理解する。作者や時代背景・文学史に関する知識を身につけ、より作品の理解を深める。原典との対照によって作品の主題を考察する。			
		3週	小説「羅生門」(芥川龍之介)				
		4週	小説「羅生門」(芥川龍之介)				
		5週	小説「羅生門」(芥川龍之介)				
		6週	小説「羅生門」(芥川龍之介)				
		7週	中間試験				
		8週	答案返却・解説				
	2ndQ	9週	評論「水の東西」(山崎正和)	2、評論「水の東西」を読解する。論理の展開を的確に捉える。筆者の東西文化に関わる主張、今日に生きている伝統的な美意識について各自で思考をめぐらす。			
		10週	評論「水の東西」(山崎正和)				
		11週	評論「水の東西」(山崎正和)				
		12週	評論「水の東西」(山崎正和)				
		13週	短歌と俳句	3、短歌・俳句を学ぶ。詩情のありかを的確に捉える。表現に込められた感性を様々な角度から読みとる。作者や背景に対する知識を学び、作品を鑑賞できる素養を養う。			
		14週	短歌と俳句				
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・諸課題				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	現代文Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0002	科目区分	一般 / 選択必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	1				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	『現代の国語』(数研出版)・『言語文化』(数研出版)・『プレミアムカラー 国語便覧』(数研出版)・『新版 チャレンジ常用漢字』(第一学習社)						
担当教員	上芝 令子						
到達目標							
1. 日本語で書かれた文章を的確に読解すること。 2. さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を涵養すること。 3. 作品が書かれた時代(文学史)や作家に関する知識を身につけること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	日本語で書かれた文章を的確に読解できる	日本語で書かれた文章を読解できる	日本語で書かれた文章を読解できない				
評価項目2	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことが的確にできる	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことができる	さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を養うことができない				
評価項目3	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることが的確にできる	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることができる	作品が書かれた時代や作家に関する知識を身につけることができない				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)							
教育方法等							
概要	日本語で書かれた文章を的確に理解する能力を養うため、小説、評論などの文章を読解する。また、自分の考えをまとめ表現できる思索力と言語能力を身につける。						
授業の進め方・方法	講義を基本とする。週に一度を目安に漢字テストを実施する。適宜、課題提出も課す。新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する場合があります。						
注意点	授業態度は常に真摯にとり組む姿勢が基本です。積極的に学び、文章を読むことの楽しさ、奥深さに向き合ってください。漢字テストは楷書で丁寧に記すよう、くれぐれも留意しておくこと。(新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する可能性があります。)						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	詩「I was born」(吉野弘)「サーカス」(中原中也)	1、詩「I was born」ほかを読解・鑑賞する。詩情のありかを的確に捉える。表現に込められた感性を様々な角度から読みとる。作者や背景に対する知識を学び、作品を鑑賞できる素養を養う。			
		2週	詩「I was born」(吉野弘)「サーカス」(中原中也)				
		3週	詩「I was born」(吉野弘)「サーカス」(中原中也)				
		4週	評論「他者を理解するということ」(鷲田清一)	2、評論「他者を理解するということ」を読解する。自己と他者の理解について考察し、論理の展開を的確に捉える。筆者の主張を様々な角度から批評、考察する。			
		5週	評論「他者を理解するということ」(鷲田清一)				
		6週	評論「他者を理解するということ」(鷲田清一)				
		7週	中間試験				
		8週	答案返却・解説				
	4thQ	9週	小説「沖縄の手記から」(田宮虎彦)	3、小説「沖縄の手記から」を読み、鑑賞する。描かれている事象について各人が理解し、思索する。戦争と向き合う文学を学び、現代に生きる我々の責任と自由について思索を深める。			
		10週	小説「沖縄の手記から」(田宮虎彦)				
		11週	小説「沖縄の手記から」(田宮虎彦)				
		12週	小説「沖縄の手記から」(田宮虎彦)				
		13週	小説「沖縄の手記から」(田宮虎彦)				
		14週	小説「沖縄の手記から」(田宮虎彦)				
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解説 諸課題				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	古典文学 I
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『言語文化』(数研出版)・『プレミアムカラー 国語便覧』(数研出版)				
担当教員	上芝 令子				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古文と現代文の違いを知り、古文を読む際の基礎的知識を学ぶ。</li> <li>2. 古文、漢文の語彙や表現を学び、日本語表現の多様性を理解する。</li> <li>3. 漢文訓読の基礎的知識を学習し、簡単な漢文が読めるようになる。</li> <li>4. 古典を通じて古人のものの方、思想様式を学び、今日に活用しうる発想を知る。</li> <li>5. 古文、漢文の語彙の表現を学び、日本語表現の多様性を理解する。</li> <li>6. 漢文訓読の知識を用いて、初歩的な漢文の文章が読めるようになる。</li> </ol>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古文と現代文の違いを知り、古文を読む際の基礎的知識を学ぶことができる	古文と現代文の違いを知り、古文を読む際の基礎的知識を学ぶことができる	古文と現代文の違いを知り、古文を読む際の基礎的知識を学ぶことができない		
評価項目2	古文、漢文の語彙や表現を学び、日本語表現の多様性を的確に理解できる	古文、漢文の語彙や表現を学び、日本語表現の多様性を理解できる	古文、漢文の語彙や表現を学び、日本語表現の多様性を理解できない		
評価項目3	漢文訓読の基礎的知識を学習し、簡単な漢文を読むことができる	漢文訓読の基礎的知識を学習し、簡単な漢文を読むことができる	漢文訓読の基礎的知識を学習し、簡単な漢文を読むことができない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	中学校での古典学習をふまえ、古典入門の授業とする。古文、漢文を理解するための基礎学力を身につけ、古人の思索を理解することで豊かな教養を涵養する。日本語日本文化および東アジアの文化に対する深い見識を養うことを目的とする。				
授業の進め方・方法	講義を基本とする。適宜、課題提出も課す。新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する場合があります。				
注意点	グローバル化が叫ばれる現代だからこそ、自らが立脚する日本語日本文化に対する幅広い知識、理解を持つことが肝要となる。異文化に対する柔らかな享受の姿勢は日本古典文学の世界が培ってきた伝統である。ぜひ真摯かつ積極的に学んでほしい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		
		2週	古文入門「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)	1、古文入門 古文と現代文の違いを知る。 仮名遣い・文法・語彙を学習し、古文の骨格を理解する。 品詞について学習する。 文学史的知識を身につける。	
		3週	古文入門「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)		
		4週	「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)		
		5週	漢文入門「入門一」(訓読の基礎)	2、漢文入門 漢文を読む際に必要な知識を学ぶ。 訓読のきまり、書き下し文を学ぶ。 人口に膾炙した格言、成句に対する知識を深める。	
		6週	「入門二」(再読文字・助字・置き字)		
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解説		
	4thQ	9週	「芥川」(「伊勢物語」)	1、古文基礎編その1 物語作品を読み、内容を理解し、鑑賞する。 文法・語彙を学習し、古典の作品世界を理解する。 用言の活用について学習する。 文学史的知識を身につける。	
		10週	「芥川」(「伊勢物語」)		
		11週	「つれづれなるままに」(「徒然草」)	2、古文基礎編その2 古典三大随筆を知り、その一端を鑑賞する。 文法・詩彙を学習し、古典世界に親しむ。 文学史的知識を身につける。	
		12週	故事成語「矛盾」	3、漢文「矛盾」「朝三暮四」を講解する。 訓読のきまりに従い、正確な書き下し文に改めることができる。 初歩的な漢文の内容理解ができる。 故事成語について学習する。	
		13週	故事成語「矛盾」		

	14週	故事成語「朝三暮四」	
	15週	期末試験	
	16週	答案返却・解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0



呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	歴史総合 I
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	菊池 達也				
到達目標					
① 欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを説明できる。 ② 19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 ③ 歴史に対する多様な見方を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを論理的かつ詳細に説明できる。		欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを論理的に説明できる。		欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを説明できない。
評価項目2	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を論理的かつ詳細に説明できる。		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を論理的に説明できる。		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できない。
評価項目3	歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的かつ詳細に説明できる。		歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的に説明できる。		歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	江戸幕府の成立から第一次世界大戦までにおける世界および日本の歴史的展開を、大きな時代的枠組みを意識しつつ、各時代の政治・社会を学習する。				
授業の進め方・方法	配布プリントを利用しながら講義形式で授業を進める。また必要に応じてDVDも利用する。理解度を確認するため授業中に小テストを実施することがある。				
注意点	前回の授業で話した内容が次の時間にもつながるケースが多いので、授業にのぞむ前に復習をしっかりとってほしい。また授業では教員が話すことを聞くだけでなく積極的に発言してもらいたい。ただし授業に関係のない私語は厳禁。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	シラバスの内容を説明できる。	
		2週	江戸幕府の支配と構造	江戸幕府がどのような支配を行っていたか説明できる。	
		3週	江戸幕府の動揺	江戸幕府がなぜ衰退していったか説明できる。	
		4週	欧米の台頭と日本の開国	日本がなぜ開国したのか、当時の世界情勢をふまえながら説明できる。	
		5週	江戸幕府の終焉 (1)	江戸幕府がどのようにして滅亡したかを説明できる。	
		6週	江戸幕府の終焉 (2)	江戸幕府がどのようにして滅亡したかを説明できる。	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明		
	2ndQ	9週	明治新政府の構想と展開	明治新政府が実施した諸改革について説明できる。	
		10週	憲法制定と国会開設に向けて	どのようにして憲法が制定され、国会が開設されたのか説明できる。	
		11週	条約改正	条約改正実現までの流れと、それが実現できた要因について説明できる。	
		12週	日清・日露戦争	明治期における日本の対外関係と、日清・日露戦争の背景・意義について説明できる。	
		13週	第一次世界大戦と日本 (1)	第一次世界大戦が起こった背景および第一次世界大戦が日本にとってどのような意義があったのか説明できる。	
		14週	第一次世界大戦と日本 (2)	第一次世界大戦が起こった背景および第一次世界大戦が日本にとってどのような意義があったのか説明できる。	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	社会	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
			帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	

			19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
--	--	--	---	---	--

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	65	0	0	5	30	0	100
基礎的能力	65	0	0	5	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	歴史総合Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	菊池 達也				
到達目標					
<p>①第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向を説明し、平和の意義について考察できる。</p> <p>②冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。</p> <p>③歴史に対する多様な見方を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や、平和の意義について論理的かつ詳細に説明できる。		第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や、平和の意義について論理的に説明できる。		第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や、平和の意義について説明できない。
評価項目2	冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要や、そこで生じた諸問題を論理的かつ詳細に説明できる。		冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要や、そこで生じた諸問題を論理的に説明できる。		冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要や、そこで生じた諸問題を説明できない。
評価項目3	歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的かつ詳細に説明できる。		歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的に説明できる。		歴史に対する多様な見方や、異なる文化・社会が共存することの重要性について説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	第一次世界大戦後から現在にいたるまでの世界および日本の歴史的展開を、大きな時代的枠組みを意識しつつ、各時代の政治・社会を学習する。				
授業の進め方・方法	配布プリントを利用しながら講義形式で授業を進める。また必要に応じてDVDも利用する。理解度を確認するため授業中に小テストを実施することがある。				
注意点	前回の授業で話した内容が次の時間にもつながるケースが多いので、授業にのぞむ前に復習をしっかりとってほしい。また授業では教員が話すことを聞くだけでなく積極的に発言してもらいたい。ただし授業に関係のない私語は厳禁。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・歴史学とは何か	シラバスの内容を説明できる。歴史学とは何かを説明できる。	
		2週	政党政治の展開	政党政治が広まっていった経緯とその要因について説明できる。	
		3週	国際協調体制の模索と崩壊	第一次世界大戦後に世界が作りあげた国際協調体制のしくみと、それが崩壊した要因を説明できる。	
		4週	政党政治の終焉と軍国化	政党政治の時代が終わった要因を説明できる。	
		5週	第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦に日本が参戦した要因を説明できる。	
		6週	冷戦	冷戦が生じた要因と、その後の展開について説明できる。	
		7週	第二次世界大戦の実像	第二次世界大戦がいかに悲惨な戦いであったのかを説明できる。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	答案返却・解答説明		
		10週	占領下の日本	占領下の日本がどのように統治されていたかを説明できる。日本が独立するまでの過程を説明できる。	
		11週	55年体制の成立と展開	55年体制がどのように成立したのか、なぜ長期間続いたのかを説明できる。	
		12週	冷戦の終結と終わらない戦い	冷戦終結までの過程を説明できる。冷戦終結後の世界にどのような問題があるのかを説明できる。	
		13週	55年体制の崩壊と政権交代の時代	なぜ55年体制が崩壊したのか、そして現在の政権にどのようにつながっているのかを説明できる。	
		14週	まとめ	明治時代から現在にいたるまでの世界および日本の歴史的展開を説明できる。	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	社会	第二次世界大戦以降、冷戦の展開と終結、その後現在に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	

			19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
--	--	--	---	---	--

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	65	0	0	5	30	0	100
基礎的能力	65	0	0	5	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語 I
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Power On English Communication I (東京書籍) Power On English Communication WORKBOOK I (東京書籍) MEW Exercise Book Core 500 (いいずな書店) MEW Exercise Book Days 1200 (いいずな書店) Listening Scope Basic (いいずな書店) *Active Reader Intermediate (いいずな書店) *授業中にプリントで配布します。				
担当教員	大森 誠				
到達目標					
1. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細を正確にとらえることができる。 2. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要を正確にとらえることができる。 3. コミュニケーションの基礎となる語彙や文法等の知識を身につけ、正確に理解し、適切に表現することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細を正確にとらえることができる。	説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。	説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができない。		
評価項目3	事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要を正確にとらえることができる。	事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。	事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができない。		
評価項目3	コミュニケーションの基礎となる語彙や文法等の知識を身につけ、正確に理解し、適切に表現することができる。	コミュニケーションの基礎となる語彙や文法等の知識を身につけ、概ね正確に理解し、概ね適切に表現することができる。	コミュニケーションの基礎となる語彙や文法等の知識を身につけ、正確に理解することができない。適切に表現することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)を向上させる。テキストの音読と精読を通して、読解力の育成をはかるとともに、テキストに取り上げられている内容に関連した語彙や表現を身に付けることを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業では、演習を基本とする。毎回の授業で単語テスト(小テスト)を実施する。速読と聴解に特化した活動を行う。毎回の宿題に音読を課す。				
注意点	教科書や副教材だけでなく、辞書も必ず持参して活用すること。毎回必ず予習をして授業に臨むこと。授業内での活動に積極的に参加すること。配付プリントが多いので、各自ファイルを用意すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction 辞書指導		
		2週	Lesson 1-1 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		3週	Lesson 1-2 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		4週	Lesson 1-3 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		5週	Lesson 2-1 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		6週	Lesson 2-2 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		7週	Lesson 2-3 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	答案返却・解説 Lesson 4-1 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		10週	Lesson 4-2 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		11週	Lesson 4-3 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		12週	Lesson 5-1 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		13週	Lesson 5-2 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		14週	Lesson 5-3 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		

		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解説 夏休み課題の説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	英語	聞き手に正しく伝わるよう、語・句・文における強勢、文におけるリズム・イントネーション、音のつながり・区切りを意識しながら明瞭に音読あるいは発話できる。	3	
			中学校までに学習した語彙の定着を図り、高等学校指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な語彙を習得して適切に運用できる。	3	
			中学校までに学習した文構造及び文法事項に加え、高等学校学習指導要領に準じた文構造及び文法事項について習得して適切に運用できる。	3	
			日常的な話題や社会的な話題について、はっきりとした発音で、調整された速さで話された内容から、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握できる。	2	
			日常的な話題や社会的な話題について、基本的な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを話すことができる。	1	
			日常的な話題や社会的な話題について平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握して必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点を把握できる。	1	
			日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や感想を整理し、情報や考え、気持ちなどを伝える文章を書くことができる。	1	

評価割合

	定期試験	単語テスト	提出物	受講態度	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
基礎的能力	60	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Power On English Communication I (東京書籍) Power On English Communication WORKBOOK I (東京書籍) MEW Exercise Book Days 1200 (いいずな書店) *Listening Scope Basic (いいずな書店) *Active Reader Intermediate (いいずな書店) *授業中にプリントで配付します。				
担当教員	大森 誠				
到達目標					
1. 教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができる 2. 教科書の文法を理解し、使うことができる 3. 本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができる 4. 副教材の内容を理解し、応用できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	教科書の新出語句や重要語句を覚え、適切に使うことができる		教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができる		教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができない
評価項目2	教科書の文法を理解し、適切に使うことができる		教科書の文法を理解し、使うことができる		教科書の文法を理解し、使うことができない
評価項目3	本文の内容を理解し、英語で適切に自分の意見を言うことができる		本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができる		本文の内容を理解し、英語で自分の意見を言うことができない
評価項目4	副教材の内容を理解し、応用することができる		副教材の内容を理解し、概ね応用することができる		副教材の内容を十分に理解できていない、応用することができない
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)を向上させる。テキストの音読と精読を通して、読解力の育成をはかるとともに、テキストに取り上げられている内容に関連した語彙や表現を身に付けることを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業では、演習を基本とする。毎回の授業で単語テスト(小テスト)を実施する。速読と聴解に特化した活動を行う。毎回の宿題に音読を課す。				
注意点	教科書や副教材だけでなく、辞書も必ず持参して活用すること。毎回必ず予習をして授業に臨むこと。授業内での活動に積極的に参加すること。配付プリントが多いので、各自ファイルを用意すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	夏休み明け課題テスト リスニング演習, 速読演習		
		2週	Lesson 6-1 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		3週	Lesson 6-2 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		4週	Lesson 6-3 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		5週	Lesson 7-1 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		6週	Lesson 7-2 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		7週	Lesson 7-3 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	答案返却・解説 Lesson 9-1 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		10週	Lesson 9-2 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		11週	Lesson 9-3 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		12週	Lesson 10-1 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		13週	Lesson 10-2 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		14週	Lesson 10-3 単語テスト, リスニング演習, 速読演習		
		15週	期末試験		

		16週	答案返却・解説 夏休み課題の説明	
--	--	-----	---------------------	--

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	英語	聞き手に正しく伝わるよう、語・句・文における強勢、文におけるリズム・イントネーション、音のつながり・区切りを意識しながら明瞭に音読あるいは発話できる。	3	
			中学校までに学習した語彙の定着を図り、高等学校指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な語彙を習得して適切に運用できる。	3	
			中学校までに学習した文構造及び文法事項に加え、高等学校学習指導要領に準じた文構造及び文法事項について習得して適切に運用できる。	3	
			日常的な話題や社会的な話題について、はっきりとした発音で、調整された速さで話された内容から、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握できる。	2	
			日常的な話題や社会的な話題について、基本的な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを話すことができる。	1	
			日常的な話題や社会的な話題について平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握して必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点を把握できる。	1	
			日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や感想を整理し、情報や考え、気持ちなどを伝える文章を書くことができる。	1	

評価割合

	定期試験	小テスト	提出物	受講態度	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
基礎的能力	60	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0



呉工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	保健
-----------	------	-----------------	------	----

科目基礎情報				
科目番号	0010	科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科	対象学年	1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	渡邊正樹ほか『最新高等保健体育』（大修館書店）			
担当教員	丸山 啓史			

到達目標				
1. 現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択ができる。 2. 生活習慣病の予防について理解できる。 3. 喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について理解できる。 4. 薬物の種類とその健康への影響について理解できる。 5. エイズ・性感染症の現状の理解とその予防をすることができる。 6. 応急手当の意義やその基本、心肺蘇生法の理論を理解し、実践することができる。 7. 思春期における性意識を理解し、適切な性行動を選択することができる。 8. 妊娠・出産のメカニズムについて理解できる。 9. 避妊法と人工妊娠絶について理解できる				

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択が適切にできる	現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択ができる	現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択ができない
評価項目2	生活習慣病の予防について適切に理解できる	生活習慣病の予防について理解できる	生活習慣病の予防について理解できない
評価項目3	喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について適切に理解できる	喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について理解できる	喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について理解できない

学科の到達目標項目との関係				
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)				

教育方法等				
概要	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。			
授業の進め方・方法	講義を基本とする			
注意点	現在及び将来の生活を健康で安全に暮らしていくための大切な授業です。質問がある場合には、放課後やオフィスアワーを利用して積極的に質問に来てください。予習としては、事前に教科書に目を通し、疑問点を明確しておくことです。授業では、講義内容や板書の内容を理解し、理解できない点は随時質問してください。			

授業の属性・履修上の区分				
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	
		2週	現代社会と健康	健康の考え方と成り立ち
		3週	現代社会と健康	私たちの健康のすがた
		4週	現代社会と健康	生活習慣病とその予防
		5週	現代社会と健康	応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法の原理とおこない方
		6週	現代社会と健康	喫煙と健康
		7週	中間試験	
		8週	答案返却・解答説明	
	2ndQ	9週	現代社会と健康	飲酒と健康
		10週	現代社会と健康	薬物乱用と健康
		11週	生涯を通じる健康	感染症とその予防、性感染症・エイズ予防
		12週	生涯を通じる健康	思春期と健康
		13週	生涯を通じる健康	性への関心・欲求と性行動
		14週	生涯を通じる健康	妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠絶
		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
-----------------------	--	--	--	--	--	--

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	体育 I
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	瀨口 和人				
到達目標					
1. 自分の体力レベルを把握できる。 2. バレーボールの個人的技能をゲームで生かすことができる。 3. バレーボールの集団的技能をゲームで生かすことができる。 4. バレーボールのゲームを企画・運営ができる。 5. バスケットボールの個人的技能をゲームで生かすことができる。 6. バスケットボールの集団的技能をゲームで生かすことができる。 7. バスケットボールのゲームを企画・運営ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自分の体力レベルを適切に把握できる		自分の体力レベルを把握できる		自分の体力レベルを把握できない
評価項目2	バレーボールの技能をゲームで生かすことが適切にできる		バレーボールの技能をゲームで生かすことができる		バレーボールの技能をゲームで生かすことができない
評価項目3	バスケットボールの技能をゲームで生かすことが適切にできる		バスケットボールの技能をゲームで生かすことができる		バスケットボールの技能をゲームで生かすことができない
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。協調性と安全・確実・敏速に行動ができるような態度を養う。ゲームに必要な個人的技能や集団的技能を高め、技能の程度に応じた作戦を工夫してゲームができるようにするとともに、得点や勝敗を競う過程や結果に喜びや楽しさを味わう。				
授業の進め方・方法	基礎技術の練習を行って、ゲームの戦術を学習する。				
注意点	学校指定の体操服及び体育館シューズを着用すること。体力づくり・練習方法等、クラブ活動に活用するとよい。授業だけでは運動不足なので、クラブ活動や自主的トレーニングを行うとよい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・新体カテスト	1. 新体カテスト 新体カテストの測定項目を理解し、正しい測定を実施できる 自らの得点を集計し、自己評価できる	
		2週	新体カテスト		
		3週	新体カテスト		
		4週	トレーニングルーム利用講習	2. トレーニングルーム利用講習 トレーニングルーム利用に係る安全管理を理解し、基本的なトレーニングの基本姿勢、動作を習得、実践できる。また、トレーニング原理・原則の基本について説明ができる。	
		5週	集団行動・体育祭の種目	3. 体育祭種目 体育祭種目を理解し、他者と協力して安全に競技を実施できる	
		6週	バレーボール	4. バレーボール バレーボールの技術・ルールを理解し、学習した審判法を基準に体育で実践するバレーボール試合の審判ができる。 サーブ、オーバーハンドレシーブ、アンダーハンドレシーブ、スパイクを代表とする個人技能を修得し、試合で実践できる。	
		7週	バレーボール		
		8週	バレーボール		
	2ndQ	9週	バレーボール		
		10週	バレーボール		
		11週	バレーボール		
		12週	バレーボール		
		13週	バレーボール		
		14週	バレーボール・スキルテスト		
		15週	バレーボール・スキルテスト		
		16週	バレーボール・スキルテスト		

後期	3rdQ	1週	球技大会の種目	5. 球技大会種目の練習 球技大会の種目を理解し、他者と協力して安全に競技を実施できる
		2週	球技大会の種目	
		3週	バスケットボール	6. バスケットボール バスケットボールの技術・ルールを理解し、学習した審判法を基準に体育で実践するバスケットボール試合の審判ができる ゴール下シュート、レイアップ、セットシュート、ドリブル、チェストパスを代表とする個人技能を修得し、試合で実践できる。
		4週	バスケットボール	
		5週	バスケットボール	
		6週	バスケットボール	
		7週	バスケットボール	
		8週	バスケットボール	
	4thQ	9週	バスケットボール	
		10週	バスケットボール	
		11週	バスケットボール	
		12週	バスケットボール	
		13週	持久走	7. 持久走 長距離走の特性を理解し、駅伝大会で実践できる
		14週	バスケットボール・スキルテスト	
		15週	バスケットボール・スキルテスト	
		16週	バスケットボール・スキルテスト	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	基礎数学 A I
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	高遠節夫他著「新基礎数学改訂版」「新基礎数学問題集改訂版」(大日本図書)				
担当教員	赤池 祐次				
到達目標					
1. いろいろな数と式について四則計算ができること 2. いろいろな方程式, 不等式が解け, また証明ができる 3. 2次関数の性質を理解し, グラフがかけること					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	いろいろな数と式について四則計算が適切にできる。		いろいろな数と式について四則計算ができる。		いろいろな数と式について四則計算ができない。
評価項目2	方程式, 不等式が解け, 証明が適切にできる。		方程式, 不等式が解け, 証明ができる。		方程式, 不等式が解けず, 証明ができない。
評価項目3	2次関数の性質を理解し, グラフが適切に描くことができる。		2次関数の性質を理解し, グラフが描くことができる。		2次関数の性質を理解できず, グラフが描けない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)					
教育方法等					
概要	中学校の数学をもとにして, 高専数学のための基礎づくりを目的としています。整式の計算から入り, 方程式や不等式, 2次関数などを学習し, 数学的な考え方や計算技術などの習得を目指します。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につけるものです。				
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜, 小テストや課題レポートを課す。 【新型コロナウイルスの影響により, 授業内容を一部変更する可能性があります。】				
注意点	これから学んでいく数学および専門科目の基礎中の基礎なので, 分からないところを残しておくこと進級が難しくなります。基本的なことからはじめて授業を進める予定です。数学の学習は授業内容を復習し, 実際に自分で手を動かして問題を解いてみるのが大切です。もし, 授業を聴いてわからないところはどどん質問してください。随時質問は受け付けます。 中学校の数学から引き続き勉強する広い数学の世界を楽しんで行ってほしいと思います。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の計算	整式の加減乗除の計算や, 式の展開ができる。	
		2週	因数分解	整式の因数分解ができる。	
		3週	剰余の定理と因数定理	因数定理等を利用して, 4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	
		4週	分数式, 複素数	分数式の加減乗除の計算ができ, また実数, 平方根, 複素数の基本的な計算ができる。	
		5週	2次方程式	解の公式等を利用して, 2次方程式を解くことができる。	
		6週	いろいろな方程式	因数定理等を利用して, 基本的な高次方程式を解くことができ, また簡単な連立方程式, 無理方程式・分数方程式を解くことができる。	
		7週	いろいろな方程式・無理方程式・分数方程式	因数定理等を利用して, 基本的な高次方程式を解くことができ, また簡単な連立方程式, 無理方程式・分数方程式を解くことができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	恒等式, 等式の証明	恒等式と方程式の違いを区別でき, 部分分数への分解等ができる。等式の証明ができる。	
		10週	不等式	1次不等式や2次不等式を解くことができる。	
		11週	2次関数のグラフ, 2次関数と2次方程式	2次関数の性質を理解し, グラフをかき, 最大値・最小値を求めることができる。	
		12週	2次不等式	2次関数の性質を理解し, グラフを利用し2次不等式を求めることができる。	
		13週	集合・命題	集合と命題について理解できる。	
		14週	命題の証明	必要条件, 十分条件について理解し, 背理法を用いた証明ができる。	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	整式の加減乗除の計算, 及び因数定理等を利用した簡単な因数分解ができる。	3	前1, 前2, 前3
			分数式の加減乗除の計算ができる。	3	前4

			実数の絶対値について理解し、計算ができる。	3	前4
			分母の有理化等の平方根の計算ができる。	3	前4
			複素数の相等を理解し、加減乗除及び絶対値の計算ができる。	3	前4
			解の公式等を利用して、二次方程式を解くことができる。	3	前5
			因数定理等を利用して、高次方程式を解くことができる。	3	前6
			連立方程式を解くことができる。	3	前6
			無理方程式及び分数方程式を解くことができる。	3	前6,前7
			一次不等式及び二次不等式を解くことができる。	3	前10,前12
			恒等式の考え方を活用できる。	3	前9
			二次関数の性質及びグラフを理解し、最大値や最小値を求めることができる。	3	前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ および態度	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	基礎数学 A II	
科目基礎情報						
科目番号	0013	科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科	対象学年	1			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	高遠節夫他著「新基礎数学改訂版」「新基礎数学 問題集 改訂版」(大日本図書)					
担当教員	平松 直哉					
到達目標						
1. べき関数, 分数関数, 無理関数などのグラフがかけること。 2. 指数関数, 対数関数の性質を理解し, グラフがかけること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	べき関数, 分数関数, 無理関数などのグラフをかくことが適切にできる。	べき関数, 分数関数, 無理関数などのグラフをかくことができる。	べき関数, 分数関数, 無理関数などのグラフをかくことができない。			
評価項目2	指数関数, 対数関数の性質を理解し, グラフをかくことが適切にできる。	指数関数, 対数関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。	指数関数, 対数関数の性質を理解できず, グラフをかくことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)						
教育方法等						
概要	基礎数学A I に続き, 高専数学のための基礎づくりを目的としている。べき関数, 分数関数, 無理関数, 逆関数, 指数関数, 対数関数などを学習し, 数学的な考え方や計算技術などの習得を目指す。					
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜, 小テストや課題レポートを課す。 【新型コロナウイルスの影響により, 授業内容を一部変更する可能性があります。】					
注意点	これから学んでいく数学および専門科目の基礎中の基礎なので, 分からないところを残しておくこと進級が難しくなります。基本的なことからはじめて授業を進める予定です。数学の学習は授業内容を復習し, 実際に自分で手を動かして問題を解いてみるのが大事です。もし, 授業を聴いてわからないところはどンドン質問してください。随時質問は受け付けます。 基礎数学A I から引き続き勉強する広い数学の世界を楽しんで行ってほしいと思います。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	いろいろな関数	べき関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。		
		2週	いろいろな関数	べき関数や分数関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。		
		3週	いろいろな関数	分数関数や無理関数の性質及びグラフを理解し, 分数関数や無理関数を含む不等式に応用できる。		
		4週	いろいろな関数	分数関数や無理関数の性質及びグラフを理解し, 分数関数や無理関数を含む不等式に応用できる。		
		5週	いろいろな関数	分数関数や無理関数の性質及びグラフを理解し, 分数関数や無理関数を含む不等式に応用できる。		
		6週	いろいろな関数	与えられた関数の逆関数を求め, その性質を説明できる。		
		7週	指数関数・対数関数	累乗根や指数法則を利用した計算ができる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	指数関数・対数関数	指数関数の性質及びグラフを理解し, 指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。		
		10週	指数関数・対数関数	指数関数の性質及びグラフを理解し, 指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。		
		11週	指数関数・対数関数	対数の性質を理解し, 対数の計算ができる。		
		12週	指数関数・対数関数	対数の性質を理解し, 対数の計算ができる。		
		13週	指数関数・対数関数	対数関数の性質及びグラフを理解し, 対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。		
		14週	指数関数・対数関数	対数関数の性質及びグラフを理解し, 対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。		
		15週	学年末試験			
		16週	答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	分数関数や無理関数の性質及びグラフを理解し, 分数関数や無理関数を含む不等式に応用できる。	3	
				与えられた関数の逆関数を求め, その性質を説明できる。	3	
				累乗根や指数法則を利用した計算ができる。	3	
				指数関数の性質及びグラフを理解し, 指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	3	

				対数の性質を理解し、対数の計算ができる。	3	
				対数関数の性質及びグラフを理解し、対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	3	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ および態度	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0



呉工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	基礎数学 B I
-----------	------	-----------------	------	----------

科目基礎情報				
科目番号	0014	科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科	対象学年	1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	高遠節夫他著「新基礎数学改訂版」「新基礎数学 問題集 改訂版」(大日本図書)			
担当教員	小林 正和			

到達目標				
1. 座標平面における点と直線, 2直線の関係を理解し, 問題が解ける。 2. 2次曲線の問題が解ける。不等式の表す領域が図示できる。				

ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	座標平面における点と直線, 2直線の関係を理解し, 問題を解くことが適切にできる	座標平面における点と直線, 2直線の関係を理解し, 問題を解くことができる	座標平面における点と直線, 2直線の関係を理解せず, 問題を解くことができない	
評価項目2	2次曲線, 不等式の問題が適切に解ける	2次曲線, 不等式の問題が解ける	2次曲線, 不等式の問題が解けない	

学科の到達目標項目との関係				
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)				

教育方法等				
概要	中学校で学んだ数学に続いて平面図形(直線や2次曲線)の方程式を学ぶ。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につける。			
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜、小テストや課題レポートを課す。 新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する可能性があります。			
注意点	これから学んでいく数学および工学の基礎となる内容です。この講義に限りませんが、数学ではどのように答えにたどり着いたかを他人にわかるように記述することが大切です。何かわからないことが出てきたら早めに質問して貰えると嬉しいです。			

授業の属性・履修上の区分				
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	点と直線	与えられた二点から距離や内分点を求めることができる。
		2週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる。
		3週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる。
		4週	2直線の関係	2直線の関係を求めることができる。
		5週	2直線の関係	2直線の関係を求めることができる。
		6週	円	円の方程式を求めることができる。
		7週	中間試験	
		8週	答案返却・解答説明 楕円	二次曲線について、方程式とグラフの概形の関係を説明できる(楕円の方程式を求めることができる)。
	2ndQ	9週	双曲線	二次曲線について、方程式とグラフの概形の関係を説明できる(双曲線の方程式を求めることができる)。
		10週	放物線	二次曲線について、方程式とグラフの概形の関係を説明できる(放物線の方程式を求めることができる)。
		11週	2次曲線と直線	2次曲線の接線を求めることができる。
		12週	2次曲線と直線	2次曲線の接線を求めることができる。
		13週	不等式と領域	不等式の表す領域を図示できる。
		14週	不等式と領域	不等式の表す領域を図示できる。
		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	与えられた二点から距離や内分点を求めることができる。	3	前1,前2	
			直線及び円の方程式を求めることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6	
			二次曲線について、方程式とグラフの概形の関係を説明できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12	
			不等式の表す領域を図示できる。	3	前13,前14	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	基礎数学 B II		
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	高遠節夫他著「新基礎数学改訂版」「新基礎数学問題集改訂版」(大日本図書)						
担当教員	佐崎 凌佑						
到達目標							
1. 場合の数が計算できる 2. 数列の一般項, 和が計算できる。およびそれらに関係することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	場合の数が適切に計算できる		場合の数が計算できる		場合の数が計算できない		
評価項目2	数列の一般項, 和が適切に計算できる		数列の一般項, 和が計算できる		数列の一般項, 和が計算できない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)							
教育方法等							
概要	前期で学んだ基礎数学BIに続き, 場合の数, 数列に関することなどを学ぶ。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につける。						
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜, 小テストや課題レポートを課す。						
注意点	これから学んでいく数学および工学の基礎なので, 分からないところを残しておくことと進級してから大変苦労します。答えが正しいというだけでは駄目で, 答えを出すまでを正しく記述することが大切です。授業をしっかりと聞き, 「なぜこうなるか」を自分の頭で考え, 自分で問題を解くようにしましょう。わからない場合は積極的に質問してください。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	場合の数	積の法則, 和の法則の違いを説明できる			
		2週	順列	順列の計算ができる			
		3週	組み合わせ	組み合わせの計算ができる			
		4週	いろいろな順列	いろいろな順列の計算ができる			
		5週	いろいろな順列	いろいろな順列の計算ができる			
		6週	二項定理	二項定理の計算ができる			
		7週	二項定理	二項定理の計算ができる			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	数列・等差数列	数列とは何か説明できる・等差数列の一般項やその和を求めることができる			
		10週	等比数列	等比数列の一般項やその和を求めることができる			
		11週	数列の和	数列の和を求めることができる			
		12週	数列の和	数列の和を求めることができる			
		13週	漸化式と数学的帰納法	漸化式と数学的帰納法を用いることができる			
		14週	漸化式と数学的帰納法	漸化式と数学的帰納法を用いることができる			
		15週	学年末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	数学	数学	数学	積の法則及び和の法則を利用して場合の数を求めることができる。	3	後1	
				積の法則と和の法則を理解し, 順列及び組み合わせの計算ができる。	3	後2, 後3, 後4, 後5	
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	後9, 後10	
				数列の和を総和記号を用いて表し, その和を求めることができる。	3	後11, 後12	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオおよび態度	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	基礎数学C		
科目基礎情報							
科目番号	0016		科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	高遠節夫他「新基礎数学改訂版」「新線形代数改訂版」(大日本図書) 高遠節夫他「新基礎数学問題集改訂版」「新線形代数問題集改訂版」(大日本図書)						
担当教員	赤池 祐次						
到達目標							
1. 三角比を理解し、その応用ができること 2. ベクトル定義を理解し、ベクトルの基本的な計算ができること 3. ベクトルの平行・垂直条件を利用することができること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	三角比を理解し、その応用が適切にできる		三角比を理解し、その応用ができること		三角比を理解できず、その応用ができない		
評価項目2	ベクトルの演算が適切にできる		ベクトルの演算ができる		ベクトルの演算ができない		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)							
教育方法等							
概要	基礎数学A I に続き、高専数学のための基礎づくりを目的としている。三角比、力学などで重要なベクトルなどを学習し、数学的な考え方や計算技術などの習得を目指す。						
授業の進め方・方法	講義および演習を基本とする。適宜、小テストや課題レポートを課す。						
注意点	これから学んでいく数学および専門科目の基礎的な内容を学習します。分からないところを残しておくこと進級が難しくなります。基本的なことからはじめて授業を進める予定です。数学の学習は授業内容を復習し、実際に自分で手を動かして問題を解いてみるのが大切です。もし、授業を聴いてわからないところはどんどん質問してください。随時質問は受け付けます。基礎数学A I から引き続き勉強する広い数学の世界を楽しんで行ってほしいと思います。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	三角比とその応用	三角比を理解し、鋭角の場合について、三角比を求めることができる。			
		2週	三角比とその応用	三角比を理解し、鋭角・鈍角の場合について、三角比を求めることができる。			
		3週	三角比とその応用	三角比を理解し、鋭角・鈍角の場合について、三角比を求めることができる。			
		4週	三角比とその応用	正弦定理、余弦定理を用いた計算ができる。			
		5週	三角比とその応用	正弦定理、余弦定理を用いた計算ができる。			
		6週	三角比とその応用	三角形への応用ができる。			
		7週	一般角と弧度法	角を弧度法で表現することができる。			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	平面ベクトル	ベクトルの有向線分による表示を理解し、ベクトルの等号の意味が理解できる。			
		10週	平面ベクトル	ベクトルの和・差、実数倍の計算ができる。			
		11週	平面ベクトル	内積の定義を理解し、計算できる。			
		12週	平面ベクトル	内積の定義を理解し、計算できる。内積内分点のベクトル表示が計算できる。			
		13週	平面ベクトル	直線のベクトル方程式を計算できる。			
		14週	平面ベクトル	直線のベクトル方程式を計算できる。			
		15週	学年末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	数学	数学	角を弧度法で表現することができる。	3	後7		
			鋭角の三角比及び一般角の三角関数の値を求めることができる。	3	後1,後2,後3,後15		
			ベクトルの和、差、実数倍の計算ができ、大きさを求めることができる。	3	後9,後10		
			ベクトルの成分表示を利用した計算ができる。	3	後9,後10		
			ベクトルの内積を求めることができる。	3	後11,後12		
		ベクトルを使って平行や垂直を判定できる。	3	後12			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	化学 I		
科目基礎情報							
科目番号	0019		科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	小川桂一郎 他「化学基礎」(東京書籍)、竹内敬人 他「ダイナミックワイド 図説化学」(東京書籍)						
担当教員	田中 慎一						
到達目標							
1. 物質の構造、性質及びその変化を理解すること。 2. 化学の基本的な計算ができること。 3. 溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を習得すること。 4. 化学反応式の意味を理解し、計算ができること。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	物質の構造、性質及びその変化および化学の基本的な計算を適切に理解できる		物質の構造、性質及びその変化および化学の基本的な計算を理解できる		物質の構造、性質及びその変化および化学の基本的な計算を理解できない		
評価項目2	溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を適切に習得できる		溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を習得できる		溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を習得できない		
評価項目3	化学式や化学結合について理解し、物質や結晶の性質について適切に説明できる		化学式や化学結合について理解し、物質や結晶の性質について説明ができる		化学式や化学結合について理解し、物質や結晶の性質について説明ができない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)							
教育方法等							
概要	物理量の概念、計算方法等化学の基礎を理解させる。また、物質の性質はその組成と構造によって決まることから化学結合を理解し、日常で起こる様々な化学変化や現象を物質の性質から考える。本授業は進学等に関連し、学力向上を身につけることができる。						
授業の進め方・方法	講義及び演習を基本とし、学習内容に沿った実験を行う。実験は個人あるいはグループ実験を行う。						
注意点	教科書の問題や演習問題は必ず自分で解くこと。わからないことは溜め込まないで、すぐに解決しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	1.物質の成分と構成元素	物質の成分と分離・精製			
		2週	1.物質の成分と構成元素	物質の構成元素			
		3週	1.物質の成分と構成元素	物質の三態			
		4週	2.原子の構造と元素の周期表	原子の構造			
		5週	2.原子の構造と元素の周期表	電子配置と周期表			
		6週	2.原子の構造と元素の周期表	元素の周期表			
		7週	前期中間試験				
		8週	答案返却・解答説明				
	2ndQ	9週	3.化学結合	イオンとイオン結合			
		10週	3.化学結合	イオン結晶と共有結合			
		11週	3.化学結合	電子式と構造式			
		12週	3.化学結合	分子間力			
		13週	3.化学結合	分子結晶と共有結晶			
		14週	3.化学結合	金属と金属結晶			
		15週	前期末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	化学Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0020	科目区分	一般 / 選択必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	1				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	小川桂一郎 他「化学基礎」(東京書籍)、竹内敬人 他「ダイナミックワイド 図説化学」(東京書籍)						
担当教員	田中 慎一						
到達目標							
1. 物質の構造、性質及びその変化を理解すること。 2. 化学の基本的な計算ができること。 3. 溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を習得すること。 4. 化学反応式の意味を理解し、計算ができること。 5. 酸・塩基の性質及び反応を理解すること。 6. 水素イオン濃度及び水素イオン指数の計算ができること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	物質の構造、性質、その変化および化学の基本的な計算を適切に理解できる	物質の構造、性質、その変化および化学の基本的な計算を理解できる	物質の構造、性質、その変化および化学の基本的な計算を理解できない				
評価項目2	溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を適切に習得できる	溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を習得できる	溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を習得できない				
評価項目3	化学反応式、酸・塩基の性質、水素イオン濃度及び水素イオン指数を理解し、計算が適切にできる	化学反応式、酸・塩基の性質、水素イオン濃度及び水素イオン指数を理解し、計算ができる	化学反応式、酸・塩基の性質、水素イオン濃度及び水素イオン指数を理解し、計算ができない				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)							
教育方法等							
概要	物理量の概念、計算方法等化学の基礎を理解させる。また、物質の性質はその組成と構造によって決まることから化学結合を理解し、日常で起こる様々な化学変化や現象を物質の性質から考える。本授業は進学等に関連し、学力向上を身につけることができる。						
授業の進め方・方法	講義及び演習を基本とし、学習内容に沿った実験を行う。実験は個人あるいはグループ実験を行う。						
注意点	教科書の問題や演習問題は必ず自分で解くこと。わからないことは溜め込まないで、すぐに解決しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	1.物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量			
		2週	1.物質質量と化学反応式	モルの概念と計算方法			
		3週	1.物質質量と化学反応式	溶液の濃度(表し方と計算)			
		4週	1.物質質量と化学反応式	化学反応式と量的関係			
		5週	1.物質質量と化学反応式	化学変化における諸法則			
		6週	2.酸と塩基	酸と塩基の性質と定義			
		7週	後期中間試験				
		8週	答案返却・解答説明				
	4thQ	9週	2.酸と塩基	水素イオン濃度・水素イオン指数の計算			
		10週	2.酸と塩基	中和反応と塩の生成			
		11週	2.酸と塩基	中和反応の量的関係			
		12週	2.酸と塩基	中和滴定による濃度計算			
		13週	2.酸と塩基	学生実験(中和滴定)			
		14週	2.酸と塩基	滴定曲線と酸化物			
		15週	学年末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	ライフサイエンス・アースサイエンス	
科目基礎情報							
科目番号	0021		科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	地学基礎(数研), 生物基礎 I (数研)						
担当教員	田中 慎一, 平野 彩, 河上 洋輝						
到達目標							
1 地球環境と生命科学の基礎 2 地球の歴史と生物進化の基礎 3 生態系と地球環境の理解 4 現代社会における生物と地学の理解							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	地球環境と生命科学の基礎について詳細に理解できる		地球環境と生命科学の基礎について理解できる		地球環境と生命科学の基礎について理解できない		
評価項目2	地球の歴史と生物進化の基礎について詳細に理解できる		地球の歴史と生物進化の基礎について理解できる		地球の歴史と生物進化の基礎について理解できない		
評価項目3	生態系と地球環境を詳細に理解できる		生態系と地球環境の理解ができる		生態系と地球環境の理解ができない		
評価項目4	現代社会における生物と地学を詳細に理解できる		現代社会における生物と地学の理解ができる		現代社会における生物と地学の理解ができない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)							
教育方法等							
概要	ライフサイエンス・アースサイエンスでは、生物を中心とした地球環境を理解し、人間と自然との関係を統合的に考える力を養うことを目標とする。これらの知識を得る過程で、科学的な考え方や人間社会を快適にする技術への応用について考え、自らの専門分野に関係する課題に対処できるようにする。						
授業の進め方・方法	PowerPointを使った講義中心。						
注意点	担当教員は非常勤講師のため、授業の前後しかいない。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	授業計画と授業概要 生物の共通性と多様性の基礎	DNA、タンパク質、細胞、代謝、自己複製			
		2週	生命の起源と生物進化	種とは何か 化学進化 遺伝子頻度の変化 自然選択			
		3週	生態系とバイオーム	システムとしての生態系とバイオーム			
		4週	ヒトのシステム	科学的に考えるととは？			
		5週	私たちの生活とのかかわり	バイオテクノロジー、生命科学と医療、食料			
		6週	まとめと課題解説				
		7週	中間試験				
		8週	答案返却・解答説明 宇宙と地球	4 6 億年規模で地球環境と生物多様性を考える			
	4thQ	9週	授業計画と授業概要 惑星としての地球	地球の起原と地球の構造			
		10週	活動する地球	プレートテクトニクスと火山・地震活動			
		11週	移り変わる地球	地層の形成および地質時代の区分と古生物の変遷			
		12週	大気と海洋	地球の熱収支と大気・海洋の運動			
		13週	地球の環境	人間と地球環境・災害			
		14週	宇宙の構成	恒星と宇宙			
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報リテラシー		
科目基礎情報							
科目番号	0022	科目区分	一般 / 選択必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	定平誠『例題50+演習問題100でしっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint標準テキスト』						
担当教員	大和 義昭						
到達目標							
情報倫理・セキュリティの関連事項を理解し、説明でき、それに基づいた判断・行動ができる。 文書作成ソフトを使った文書作成・簡単な図形描画ができる。 表計算ソフトの基本的な使い方が理解できる。 プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成および発表ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	情報倫理・セキュリティの関連事項を理解し、説明でき、それに基づいた判断・行動ができる	情報倫理・セキュリティの関連事項を理解し、説明できる	情報倫理・セキュリティの関連事項を理解していない				
評価項目2	文書作成ソフトを使った文書作成・簡単な図形描画が適切にできる	文書作成ソフトを使った文書作成・簡単な図形描画ができる	文書作成ソフトを使った文書作成・簡単な図形描画ができない				
評価項目3	表計算ソフトの基本的な使い方が理解でき、適切に利用できる	表計算ソフトの基本的な使い方が理解でき、利用できる	表計算ソフトの基本的な使い方が理解できていない				
評価項目4	プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成および発表が適切にできる	プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成および発表ができる	プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成および発表ができていない				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)							
教育方法等							
概要	現代社会においてパソコンを使用する文書作成や表計算、インターネットや電子メールを使う能力は必要不可欠である。本授業ではパソコンを操作するために必要な基礎知識およびワープロ等の操作を学習する。また情報を処理・活用する上で重要な情報倫理・セキュリティも学ぶ。本授業は進学と就職に関連する。						
授業の進め方・方法	テキストを用いた解説および実習を主とする。適宜レポートを課す。コロナの上場により授業変更の可能性あり。						
注意点	情報倫理・セキュリティについては、e-ラーニングなどで実施する。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	高専でのPCの使い方・windows環境	高専でのPCの使い方・windows環境を理解している			
		2週	情報倫理・情報セキュリティ	情報倫理・情報セキュリティについて説明できる			
		3週	eラーニング・インターネット・webの使い方	eラーニング・インターネット・webの使い方について理解している			
		4週	Wordの使い方	Wordの基本的な使い方を理解している			
		5週	Wordの使い方	Wordの基本的な使い方を理解している			
		6週	Wordを使った演習課題	Wordの基本的な使い方を理解している			
		7週	PowerPointの使い方	PowerPointを用いた発表ができる			
		8週	PowerPointを使った資料作成	PowerPointを用いた発表ができる			
	2ndQ	9週	PowerPointを使った資料作成	PowerPointを用いた発表ができる			
		10週	発表会 (プレゼンテーションの練習)	PowerPointを用いた発表ができる			
		11週	Excelの使い方	Excelの基本的な使い方を理解している			
		12週	Excelの使い方・演習問題	Excelの基本的な使い方を理解している			
		13週	Excelの使い方	Excelの基本的な使い方を理解している			
		14週	Excelの使い方・演習問題	Excelの基本的な使い方を理解している			
		15週	Excelの使い方・演習問題・振り返り	Excelの基本的な使い方を理解している			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	10	70	0	100
基礎的能力	0	10	0	10	35	0	55
専門的能力	0	10	0	0	35	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0



呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	LHR I
科目基礎情報					
科目番号	0029	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 0		
開設学科	建築学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	使用しない				
担当教員	蒲地 祐子				
到達目標					
<p>1. ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p> <p>2. 学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>3. SAPARなどの活動を通して、自身のキャリアデザインを明確化できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ホームルーム活動を通して、率先して望ましい人間関係を形成し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を十分に発揮できる。	ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を持っている。	ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成できない、あるいは、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度がない。		
評価項目2	学校行事を通して、率先して集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を十分に発揮できる。	学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を持っている。	学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深めることができない、あるいは、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度がない。		
評価項目3	SAPARなどの活動を通して、自身のキャリアデザインを明確化し、目標に向かって実践できる。	SAPARなどの活動を通して、自身のキャリアデザインを明確化できる。	SAPARなどの活動を通して、自身のキャリアデザインを明確化できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ホームルーム活動や学校行事、呉高専キャリア教育プランSAPARの活動等を通じて、望ましい人間関係の構築、集団への所属意識や連帯感を深め、公共の精神を養い、諸問題を解決し協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てるとともに、自らのキャリア形成について考える。				
授業の進め方・方法	年間の計画はこのシラバスに記載のとおりですが、詳細は半期ごとに計画し教室内に掲示します。 【新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する可能性があります】				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	新生オリエンテーション		
		2週	1年合同HR (身だしなみ指導・交通安全教室)		
		3週	遠足		
		4週	1年合同HR (防災教育)		
		5週	心と体の健康調査・生活習慣調査		
		6週	1年合同HR (携帯電話安全教室)		
		7週	中間試験について		
		8週	1年合同HR (カウンセラー講話)		
	2ndQ	9週	学級活動		
		10週	他学科合同のレクリエーション		
		11週	学級活動		
		12週	学級活動		
		13週	学級活動		
		14週	期末試験について		
		15週	夏休みの生活について		
		16週			
後期	3rdQ	1週	校長訓話・後期開始にあたって		
		2週	球技大会について		
		3週	高専祭について		
		4週	合同津波避難訓練		
		5週	高専祭準備		
		6週	高専祭準備		
		7週	中間試験について		
		8週	防火訓練		
	4thQ	9週	学級活動		

	10週	学級活動	
	11週	先輩の話 (SAPAR)	
	12週	学級活動	
	13週	国際交流イベント報告会	
	14週	学年末試験について	
	15週	1年を振り返って	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	20	0	20
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	80	0	80

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築設計製図 I
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	専門 / 選択必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『建築設計製図』 (実教出版社) 『住まいの建築設計製図』 (学芸出版社)				
担当教員	河崎 啓太				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。</li> <li>製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を作成できる。</li> <li>製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。</li> </ul>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法をよく体験・理解し, 適切に説明できる。		線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。		線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解せず, 説明できない。
評価項目2	製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を適切に作成できる。		製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を作成できる。		製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を作成できない。
評価項目3	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で適切に作成できる。		製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。		製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)					
教育方法等					
概要	本科目の目的は, 建築製図の基本となる製図用具の使い方と製図規約の習得と, 基礎的な建築設計製図の製図法を習得することである。この目的を達成するため, 授業は平行定規を使用し, 教科書に記載された手本教材を手書きで正確に模写する実習を行う。建築士試験では製図試験も必須であるため, 製図規約を学習する本科目は就職や将来建築技術者としての実務に大いに関連する。				
授業の進め方・方法	演習を中心として, 適宜講義・説明を加え, 課題を出す。				
注意点	成績については「評価割合」の欄を参照する。この欄の「総合評価割合」の「合計」100%のうち, 60%以上達成すれば合格となる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	指導教員による製図道具の説明, 基礎製図, 線の練習	製図用具の特性を理解し, 使用できる。	
		2週	基礎製図, 線の練習	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。	
		3週	基礎製図, 文字, 平面表示記号の書き方練習 1 週目	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。	
		4週	基礎製図, 文字, 平面表示記号の書き方練習 2 週目	線の引き方, 円の描き方, レタリングなどの練習を通して, 建築設計製図の基礎的な技法を体験・理解し, 説明できる。	
		5週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 1 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
		6週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 2 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
		7週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 3 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
		8週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 4 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
	4thQ	9週	1/200配置図, 1/100平面図, 1/100立面図, 1/100断面図の描き方練習 5 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
		10週	1/50平面図の書き方練習 1 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
		11週	1/50平面図の書き方練習 2 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
		12週	部分詳細図 (基礎部分) の書き方練習 1 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
		13週	部分詳細図 (基礎部分) の書き方練習 2 週目	製図用具の正しい使い方と製図規約の基本ルールに基づき, 単純な図面を作成できる。	
		14週	1/100平面図設計課題 1 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	
		15週	1/100平面図設計課題 2 週目	製図法を基本とし, 簡単な木造平面を図面の正しい描き順で作成できる。	

		16週	1/100平面図設計課題 3週目（発表会）		自らが作成した図面について、的確にプレゼンテーションができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	10	0	20	70	0	100
基礎的能力	0	0	0	10	40	0	50
専門的能力	0	10	0	10	30	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	ものづくり実習		
科目基礎情報							
科目番号	0025	科目区分	専門 / 選択必修				
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	必要な内容はプリントとして配布。						
担当教員	岩城 考信						
到達目標							
1. 作業の方法を理解し、正確かつ安全に作業ができる。 2. デザイン性のあるツリーハウスやスツールを設計し、製作できる。 3. 実習の成果をプレゼンテーションと報告書としてまとめることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
作業の方法を理解した、正確かつ安全な作業	作業の方法を理解し、正確かつ安全な作業を適切に実践できる。	作業の方法を理解し、正確かつ安全な作業を実践できる。	作業の方法を理解し、正確かつ安全な作業を実践できない。				
デザイン性のある卓上文房具入れの設計と制作	デザイン性のある卓上文房具入れの設計と制作が適切にできる。	デザイン性のある卓上文房具入れの設計と制作ができる。	デザイン性のある卓上文房具入れの設計と制作ができない。				
実験や実習の成果のプレゼンテーションと報告書の作成	実習の成果をプレゼンテーションと報告書として適切にまとめることができる。	実習の成果をプレゼンテーションと報告書としてまとめることができる。	実習の成果をプレゼンテーションと報告書としてまとめることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)							
教育方法等							
概要	ものづくりに関する基礎的な知識・技術を身に付け、実験や実習による体験を通して、各分野における技術への興味・関心を高め、その意義や役割を理解して、広い視野を養うとともに工業の発展を図る意欲的な態度を身に付ける。本演習は創造力や工夫する力を身につけることができるものである。						
授業の進め方・方法	各学生の設計意図や能力に応じた個別指導を基本とする。初期段階では、4~5名のグループ内で意見交換し、卓上に置く文房具入れのアイデアを固める。その後個別に設計と工作を行い作品を完成させる。完成後、発表会を行う。						
注意点	道具の誤った使い方、気を抜いた作業をすると大怪我をすることがあるので、安全に注意し、集中して授業に望むこと。また、分らないことがあれば、そのままにせず、質問すること。 評価方法：出席状況10%+実習態度10%+発表10%+作品の評価60%+報告書10%=100% (100点) で成績評価を行う。 評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	第1課題「ツリーハウス」の課題説明とチーム課題	10以上の案の提案をチームで行う。			
		2週	設計案の作成	決められた材料に対する設計を行うことができる。			
		3週	模型の作製	決められた材料の模型を作製することができる。			
		4週	模型の作製	決められた材料の模型を作製することができる。			
		5週	模型の作製	決められた材料の模型を作製することができる。			
		6週	講評会 (発表のみ)	自らの設計、作製したものを他者にわかりやすく発表することができる。			
		7週	第2課題「ダンボールスツール」の課題説明と設計案の作成 1	決められた材料に対する設計を行うことができる。			
		8週	設計案の作成 2	決められた材料に対する設計を行うことができ、かつスタディ模型の作成ができる。			
	2ndQ	9週	設計案の作成 3	決められた材料に対する設計を行うことができ、かつスタディ模型の作成ができる。			
		10週	部材の加工 1	決められた材料を適切に加工することができる。			
		11週	部材の加工 2	決められた材料を適切に加工することができる。			
		12週	部材の組み立て 1	部材の組み立てを行うことができる。			
		13週	部材の組み立て 2	部材の組み立てを行うことができる。			
		14週	講評会 1	自らの設計、作製したものを他者にわかりやすく発表し、質問に回答することができる。			
		15週	講評会 2	自らの設計、作製したものを他者にわかりやすく発表し、質問に回答することができる。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	報告書	態度	ポートフォリオ	出席状況	合計
総合評価割合	0	10	10	10	60	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	10	10	60	10	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	造形 I		
科目基礎情報							
科目番号	0026	科目区分	専門 / 選択必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	建築学科	対象学年	1				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	課題プリント等						
担当教員	間瀬 実郎						
到達目標							
2点パースの作図ができること。 スチレンボードを使った模型の製作ができること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	正確な作図・デザイン性・工作力の優れた作品	一定以上の作図・工作力	作図不能・工作不能				
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)							
教育方法等							
概要	2点透視図の作成と自由設計の模型をおこなう。本科目は建築作品プレゼンテーションの基本となるものであり、就職と進学の両方に関連する。						
授業の進め方・方法	パース、模型とも演習形式とする						
注意点	成績評価は「評価割合」の欄を参照する。この欄の「総合評価割合」の「合計」100%のうちの60%以上達成すれば合格となる。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	2点透視図キットの使い方	基本作図方法の習得			
		2週	住宅の2点パースの作成	概形作図			
		3週	住宅の2点パースの作成	開口、サッシ等の作図			
		4週	住宅の2点パースの作成	添景、仕上げ			
		5週	有名建築パースの作図 (サヴォア邸またはミニハウス)	概形作図			
		6週	有名建築パースの作図 (サヴォア邸またはミニハウス)	添景、仕上げ			
		7週	有名建築パースの作図 (サヴォア邸またはミニハウス)	添景、仕上げ			
		8週	スチレンボード加工方法	エスキース			
	4thQ	9週	模型制作	概形着手			
		10週	模型制作	概形完成			
		11週	模型制作	詳細着手			
		12週	模型制作	詳細着手			
		13週	模型制作	詳細着手			
		14週	模型制作	完成仕上げ			
		15週	講評会	作品の説明、プレゼンテーション			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	10	0	0	90	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	0	90	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築学入門	
科目基礎情報						
科目番号	0027	科目区分	専門 / 選択必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科	対象学年	1			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	自作講義メモ					
担当教員	篠部 裕					
到達目標						
1. 建築に求められる様々なニーズを身近な生活を例に説明できる。 2. 建築に関する様々な専門知識や技術の所在を身近な生活を例に説明できる。 3. 建築をテーマとする基礎的な演習課題を通じて、自学・自習を行える主体的な学習習慣を身に付ける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
建築と身近な生活や社会との関係	建築と身近な生活や社会との関係を適切に説明できる	建築と身近な生活や社会との関係を説明できる	建築と身近な生活や社会との関係を説明できない			
建築に関する専門知識や技術の基礎	建築に関する専門知識や技術の基礎を適切に説明できる	建築に関する専門知識や技術の基礎を説明できる	建築に関する専門知識や技術の基礎を説明できない			
建築をテーマとする基礎演習	建築をテーマとする基礎演習を適切に実施できる	建築をテーマとする基礎演習を実施できる	建築をテーマとする基礎演習を実施できない			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)						
教育方法等						
概要	建築とは何か、建築学の全体像を概観することを主たる目的とする。建築学は他の工学と比較して幅広い専門分野の上に構築される学問である。建築に関連する様々な専門分野の存在、建築を多面的な視点で捉えることの意味、建築と生活そして社会との関わりなど、建築を学ぶ上での基礎知識を習得することを目的としている。					
授業の進め方・方法	授業は毎回配布する講義メモを中心に行う。また、建築に関する基礎的なレポート課題を実施する。					
注意点	成績評価の割合については、この科目シラバスの最下部にある「評価割合」の欄をご覧ください。この欄にある「総合評価割合」の「合計」100%のうち60%以上到達すれば合格となります。試験については、中間試験30%と期末試験30%として扱います。 「好きこそものの上手なれ」という言葉があるように、建築を学ぶ上でまず大切なことは「建築を好きになる」ことです。普段から図書館に足を運び、建築関係の雑誌をみる習慣を身に付け、自分好みの建築を1つでも多く見つけてください。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	建築とは、建築の学び方	建築の定義、建築の学び方の基本を理解している。		
		2週	建築と建築学、建築の専門領域	建築学と建築の専門領域の概要をカリキュラムを例に説明できる。		
		3週	建築と生産、建築を取り巻く建設産業界	住宅の建設プロセスの大まかな流れ、建設産業界の全体像を身近な例で説明できる。		
		4週	日本建築の成り立ち	日本建築の成り立ちや歴史を住宅を例に説明できる。		
		5週	建築と環境	建築と環境、風土の関係性について説明できる。		
		6週	建築と都市	個々の建築が歴史を積み重ね、集落や都市を形成していることを説明できる。		
		7週	中間試験	中間試験までの学習内容を理解している。		
		8週	答案返却・解答説明、建築の安全性	建築の安全が求められる背景を身近な災害を例に説明できる。		
	2ndQ	9週	建築の安全性	建築の安全が求められる背景を身近な災害を例に説明できる。		
		10週	建築の美しさ	比例、シンメトリー、コントラストなどの美的原理の基礎を説明できる。		
		11週	持続可能な社会と生活	日常生活レベルにおける持続可能な生活と建築のあり方を説明できる。		
		12週	持続可能な社会と建築	持続可能な社会形成と建築のあり方の関係を説明できる。		
		13週	持続可能な社会と都市	持続可能な社会形成と都市のあり方の関係を説明できる。		
		14週	建築の保存と再生	歴史的建築の保存と再生のあり方を説明できる。		
		15週	前期末試験	前期末試験までの学習内容を理解している。		
		16週	答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	小テスト	レポート	態度	その他	合計
総合評価割合	60	0	35	5	0	100
基礎的能力	60	0	35	5	0	100



専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築構法 I	
科目基礎情報						
科目番号	0028		科目区分	専門 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	桑村仁『建築構法』(実教出版)、大野義照『必携建築資料』(実教出版)、実教出版編集部『建築構法演習ノート』(実教出版)					
担当教員	篠部 裕					
到達目標						
建築構法のなりたち、分類、関連する法律や規準について理解する 在来軸組構法の構造形式と軸組・耐力壁・小屋組等の構成について理解する						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築構法のなりたち、分類、関連する法律や規準について適切に理解している		建築構法のなりたち、分類、関連する法律や規準について理解している		建築構法のなりたち、分類、関連する法律や規準について理解できていない	
評価項目2	在来軸組構法の構造形式と軸組・耐力壁・小屋組等の構成について適切に理解している		在来軸組構法の構造形式と軸組・耐力壁・小屋組等の構成について理解している		在来軸組構法の構造形式と軸組・耐力壁・小屋組等の構成について理解できていない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC)						
教育方法等						
概要	「建築構法」の授業は建築物がどのようにして形作られるのかを学ぶものであり、1年次では木質構造を対象として、構造の特徴、材料の基本的な性質や木質構造を構成する部材の種類や役割について学習する。本授業は就職・進学のいずれにも関係する。					
授業の進め方・方法	講義を基本とする。適宜レポート課題を課す。					
注意点	「総合評価割合」の「合計」100%のうち60%以上到達すれば合格とします。試験については、中間試験35%と期末試験35%として扱います。 この科目の内容を理解するためには、教科書の内容をただ覚えるのではなく、身近にある建築物を観察してその建築物がどのようにしてつくられているのかを実際に見ることや授業の内容との対応を自分で考えることがとても重要です。日頃からたくさんの建築物を見て考える習慣を身に付けてください。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	災害による建築物の被害、建築構法の歴史	建築構法の歴史的発達のあらましの基礎を説明できる		
		2週	建築構法の分類、建築物に働く力、法規・規準	建築構法の材料・作り方・形による分類を、建築物に働く力の種類を説明できる		
		3週	木構造の構造形式、木材	木構造と特徴と構造形式を説明できる		
		4週	木材の性質と木質材料	木材の性質と木質材料の特徴を説明できる		
		5週	木質構造の接合方法	木質構造の接合方法について、継手・仕口・接合金物を説明できる		
		6週	基礎、軸組の構成、土台	基礎を支える地盤の性質と基礎の役割や構成について説明できる		
		7週	中間試験	中間試験までの学習内容を理解している。		
		8週	答案返却・解答説明、軸組の構成部材	軸組について主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
	4thQ	9週	耐力壁と筋かい	耐力壁と筋かいの役割について説明できる		
		10週	小屋組	小屋組について主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		11週	床組	床組について主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		12週	階段、開口部	階段、開口部について主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		13週	外部仕上げ	外部仕上げについて主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		14週	内部仕上げ	内部仕上げについて主要な構成部材の名称とその役割を説明できる		
		15週	学年末試験	学年末試験までの学習内容を理解している。		
		16週	答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	材料	木質材料の種類とその特質(力学的特性、耐久性など)について説明できる。	3	後4
			構造	建築構造の種類や特性を説明できる。	3	後1,後2,後3

				木質構造の特徴・構造形式、建築構法を説明できる。	3	後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
--	--	--	--	--------------------------	---	---------------------------------------

評価割合						
	試験	小テスト	レポート	態度	その他	合計
総合評価割合	70	0	25	5	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	25	5	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0